

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービス あまーちforゆう		公表日		2024年	2月	21日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		床下収納や戸棚、コンテナ等を活用し、児童が活動している周りに極力必要なもの以外は置かずに、スペースを確保するようにしている。	受け入れる児童が増えてきても、すでに配置してあるものを整理し十分なスペースが確保できるようにする。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		基本的に1対1での配置をしている。医療的ケア児を毎回受け入れているので看護師は必ず配置している。送迎時にも吸引が必要な児童（気切をしている児童）がいる場合は吸引ができるスタッフが必ず添乗している。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		広いエレベーターがあること、リフトやリクライニングチェアなど、児童の状態に応じ設備を活用している。トイレに標識を使用している。	今ある設備をフル活用し児童も支援者も双方に負担がないようにしていきます。必要に応じてより構築化された設備の導入の導入をしていきます。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		個人個人にアルコール消毒とビニル手袋のセットしたものを近くに置いて置き、いつでも使用できるようにしている。季節に応じて適宜換気や除湿、加湿を行い、清潔で心地よい環境になるようにしている。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		必要時は別室を使用している。それらの部屋の使用時はパーテーションを使用し個別の空間の確保をしている。			
	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		スタッフ会議においてケース検討をしている。また、日々の始まりの会、終わりの会を通じ振り返りや情報共有をしている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		懇談会にて保護者向けの評価表に基づいた議題を上げつつ、意向の確認、ニーズの把握を行い改善に繋げている。			

業 務 改 善	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々の始まりの会、終わりの会を通じ振り返りや情報共有をしている。スタッフ会議においても意見を把握する機会を設けている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者評価は実施していない。	必要があれば第三者評価の検討を行う。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内の内部研修、階層別研修、外部への研修にも参加している。他事業所との実践報告会も参加した。多くのスタッフが参加できるよう研修の案内をしている。また、法人内の研修の機会はリモートを用いる等参加しやすい環境を整えている	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		現在作成中で3月に公表します。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		契約時にアセスメントを行い、それに基づきニーズ課題を分析し、個別支援計画を作成している。必要に応じて懇談会等でニーズの把握等の情報収集を行い、総括会議の機会などを通しニーズの分析、課題の分析を行っている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		日々の始まりの会、終わりの会を通じ情報共有を行い、計画作成に際する児童の最善の利益を考慮した検討も行っている。必要に応じてスタッフ会議の中でも協議している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		各スタッフに個別支援計画をいつでも閲覧できるように情報発信を行いつつ、各々が計画に沿った支援の実施をしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		保護者とは、懇談や送迎時にこどもの情報を交換し、スタッフ間には、日々の様子を終わりの会で報告し共有を図っている。また、その内容を記録している。	契約時や懇談会でフォーマルなアセスメントを行い、その情報はファイリングして共有を図り、日々の様子は終わりの会で共有していく。また、会議のレジメで共有を図る。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		支援計画には長期目標、短期目標をベースとし、それぞれの項目として、「生活支援」「発達支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援」「身体拘束について」「医療的ケア」があり、それぞれに対して具体的な支援内容を記載している。	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		日々の始まりの会、終わりの会を通じ情報共有をしている。そこでの意見を立案に反映している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節に応じたプログラムの展開や、それぞれのスタッフの得意分野を生かした取り組みを行っている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		平日は入浴が中心でその他身体の手組みやマッサージ等個別中心の支援、休日は入浴の他にイベント参加等の集団で活動できる支援を実施している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		午前中に出勤しているスタッフは役割等を記載してある日案を基に打ち合わせを行っている。それ以外はそれぞれ順次出勤してきたスタッフは必ず日案に目を通し、自身の役割を把握して支援を行っている。連絡帳の読み合わせをし、その日の児童の様子を把握している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		終わりの会で振り返りを行っている。また、翌日の午前の打ち合わせの中で前日の振り返りを併せて行っている。スタッフ個人の気づきがあれば日案に記載し、共有をしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		終わりの会で各スタッフから支援の検証・改善点について意見が上がったことを記載している。また、いつでも記載できるようにしている。	日々の記録を基にスタッフ会議で検討し改善していきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		特に個人懇談を開催した時にモニタリング報告やじっくり聞き取りを行い作成に繋げている。懇談の案内をする際にアンケートを添付し、その中で見直し等意見があれば必要に応じた見直しを行っている。モニタリングで新たにニーズがあった時は見逃さずに計画に反映させている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		「日常生活充実のための活動」「余暇活動」は入浴や身体の手組みに重点を置いている。「創作活動」は、書初めやお礼のメッセージを作成し、「地域交流」は水堂祭りやもちつき大会で交流を図った。	

	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		意思表示がはっきりしている児童に対してはイエスノーやいくつかの選択肢を提示し確認しながら自己決定の促しをしている。意思表出が困難な場合は、仕草や身体の動き、バイタルの変化等で汲み取りながら自己決定につながるように支援している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		開催があれば参画し、状況把握しているスタッフが情報発信を行っている。	今後開催があれば子どもをよく理解したものが事前の情報収集を十分に行いつつ参画する。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		書類を通じてそれぞれの関係機関との連携を図りながら、必要に応じた支援体制を整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校との引継ぎ時には個人情報に差支えない程度に情報交換を行っている。トラブル時、送迎に間に合わない時は学校に連絡を行っており情報共有もできている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		相談支援がついている場合は、専門員を通じて情報の収集を行い、共通理解に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		同法人内であれば、生活介護の体験、見学などを通じ支援内容の提供を行っている。	必要に応じ移行時に情報提示の依頼があれば、提供をしていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		必要に応じて連携を図っている。STなど専門家を派遣してもらい研修を実施している。	研修の案内があれば見逃さず参加していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域の子どもとの交流の機会として、小学生喫茶イベント、いこいこ水堂祭り、おもちつきを開催しそれぞれで交流をした。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		ネットワーク会議には参加できている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		特に送迎時に様子をお伝えすることや、聞き取りを行っている。個人懇談や全体の懇談会で情報を共有している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		家庭内での困りごとがあれば懇談会の議題で取りあげ、意見の交流をしている。	今後は看護師、PTも懇談に参加し、それぞれの立場から情報提供等を行う。

保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時、運営規定、利用者負担等を記載してある重要事項説明書に基づき丁寧な説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		アセスメントで意向の確認をしている。個人懇談や全体懇談会でサービス提供に関する諸々の説明を丁寧に言い同意を得ている。支援計画作成と合わせサービス提供に関してもアンケートを添付し、意向の確認をしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		個人懇談を開催した時に支援計画に関する諸々の説明を丁寧に言い同意を得ている。送迎時に説明の機会があれば言い、同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		日頃より相談には応じている。個人懇談、全体懇談会の中で悩みごとの意見交換を行っている。参加できない方にもアンケートで困りごとがあれば記載していただいている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	保護者については、全体懇談会を開催し、交流の場を設けているが、きょうだい同士の交流の場は設定して出来ていない。	兄弟同士が交流する機会についてニーズがあれば必要に応じて法人で開催するイベント内で呼びかけを行う。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情対応の体制は整っており、契約時に説明している。苦情まではいかなくても、何か保護者からあれば、迅速に検討し対応している。	今後も速やかな苦情対応を行い、初期面談では苦情対応の体制についての十分な説明を行う。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		法人が発行するニュース・毎月発行する独自のニュース・HP・Instagram・LINEなどで情報を発信している。	今後も肖像権等の個人情報に留意しながら、各媒体を用い発信を行っていく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		捺印のための持ち出しの書類は、バインダーと持ち出し袋を用いて取り扱いに注意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		法人として水堂祭りを地域住民と共に実施し、餅つき大会、秋の味覚市などを実施し地域の方を招待している。	

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルは策定できている。職員には会議で学習会・訓練を行い、保護者には懇談会で周知を図っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画は策定できている。 また、抜き打ちで避難訓練を行っている	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		服薬や発作は契約時に聞き取りを行い、変更があればその都度情報をいただいている。また発作があればその都度情報を交換している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		胃ろうから注入が必要な子にアレルギーがあるが、持参していただいた栄養を注入している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画は作成しており、会議の中で学習会も行い実践している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		外出や夏のプール遊びなど、家族に了承を得て行い、通信・LINEなどでその取り組み内容を報告している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		毎月の会議議事録にヒヤリハットを記載し対策の検討を行っている。それを基に年2回総括している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		毎年「虐待防止学習会」を行い、研修報告書を提出、それぞれが自分の支援を振り返っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束に関しては、保護者に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載している。	